

創ろう 最上のまち西条を！ 最高峰 石鎚のふもとで

心をあわせて最上のまちづくり！



「開かれた市政」に一步前進

西条市長に就任させていただき、1年3カ月を迎えようとしております。

この間、議員各位、ならびに市民の皆さま方の格別のご協力とお力添えをいただき、順調なまちづくりの進展がみられますことに対し、深く感謝申し上げます。

就任以来、「和・輪・話・笑」（わ・わ・わ・わ）の4文字をキーワードに、職員に市民目線の意識醸成を促しつつ、組織体制の整備や広報・広聴事業の充実などに取り組み、市民の皆さまとの対話「キャッチボール」を旨として、市政運営に邁進してまいりました。その結果、市民の皆さまに身近な「開かれた市政」の実現に向けまして、一步前進できたのではないかと思うところでです。

明確な方向性と リーダーシップ

リーダーシップ

さて、昨年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やアベノミクスと言われる経済対策の景気刺激が功を奏し、4四半期連続のプラス成長を成し遂げるとともに有効求人倍率が6年1カ月ぶりに1・0倍を回復、全ての地域で1年前と比べ消費が拡大するなど景気回復のすそ野は着実な広がりを見せており、我が国が失われた「自信」を取り戻すための転換期となった年でした。

しかしながら、今なお復興へと至らない東日本大震災と原発事故が残した深い爪痕や、急激な円安がもたらした原材料価格の高騰に伴う中小零細企業への経営負担、また、4月からの消費税率引き上げによる国民生活への影響など、まだまだ楽観視

できない社会経済状況におかれています。

このような中、政府は、5兆5千億円に上る本年度補正予算や平成26年度予算等を通じ、未来を見据えた復興策、地方が持つ「可能性」を開花させる経済振興策などを着実に実施することで、全国津々浦々まで経済の好循環を実感させ「新たな創造と可能性の地」東北の実現と15年にわたる長引くデフレ不況からの脱却をめざして、国民が真の活力を取り戻すための道筋をつける決意を示しました。

加えて、TPP交渉や外交・安全保障問題等、世界各国との連携を要するさまざまな課題の解決においても、国家百年の計ともいふべき将来展望を国民に示し、対話の中で各国首脳との信頼関係を築き、一つ一つ前に進むとしています。

市議会3月定例会が2月25日から3月19日までの23日間の会期で開かれ、平成26年度予算などの議案が上程され、審議されました。青野市長が議会初日に述べた、市政に臨む所信と新年度の具体的な施策の概要についてお知らせします。